

御蔵島におけるギンヤンマの記録

西川百世

はじめに

2024年、御蔵島小中学校校庭においてギンヤンマの成虫（雄雌）を発見し、捕獲した。野生生物目録「東京いきもの台帳」で過去の記録を確認したところ、御蔵島においてギンヤンマの記録がなかったため、今回報告する。

御蔵島小中学校校庭の環境は、明るく開放的な草地で、西側に10m程の壁面、そのすぐ下が小川となっている。小川は人工で、上流部には直径1m深さ20～30cmの池があり、そこからゆっくりと水が流れ出ている。水の中は常に藻が発生し、落ち葉や枯れ枝があるため、ギンヤンマが好む環境と言える。

◎一回目記録

2024年9月21日、校庭の西側寄りでギンヤンマを発見し、雄1匹を捕獲した。この日は他に2匹の飛翔を確認している。捕獲した個体は西川勇之介が飼育し、後に標本にしている。



図1. 2024年9月21日
ギンヤンマ（雄）

◎二回目記録

2024年10月2日、校庭にてギンヤンマ1匹(雄)、ギンヤンマ(雌)1匹を捕獲した。この日は連結して飛行している様子が見られ、他にももう一組のギンヤンマが連結して飛行していた。



図2. 2024年10月2日
ギンヤンマ(雄)



図3. 2024年10月2日
ギンヤンマ(雌)

考察

観察から7か月後の5月3日に、校庭小川を調査したが、幼虫を発見することはできなかった。校庭の小川は、定期的には子供達によって藻が取り除かれることや、水が止められることがあるため、産卵しても育つことができないのかもしれない。また、校庭東側タンテイロ入り口のナラン川の水たまりも調査してみたが、幼虫の発見には至らなかった。小川と同じく、ナラン川の水は雨が降らなければ溜まらない。明るく開けた池沼を好むギンヤンマが繁殖するには、御蔵島は木々が生い茂り、当てはまる環境が見られない。そのため、今回発見された個体は島内で繁殖した個体ではないと予想される。しかし、水中調査をしたのは一部であるため、今後、ギンヤンマが好むような池沼を発見し、調査をすれば記録することができるかもしれない。島内で繁殖していないのであれば、今回観察したギンヤンマはどこから来たのか、今後も観察することができるのか、天候や環境と共に記録を続け、考察していきたいと思う。